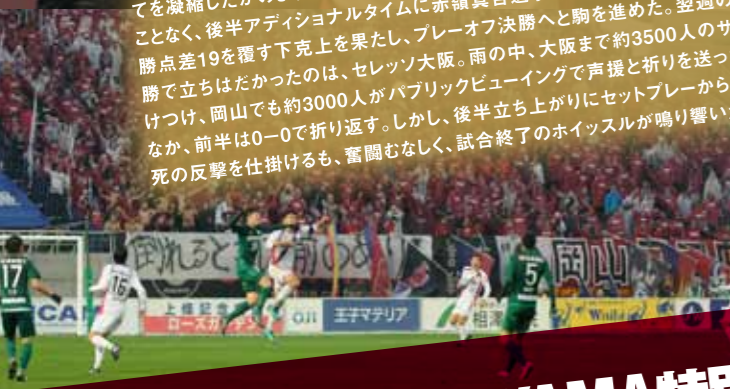




# 初のプレーオフで奮闘!

迎えたプレーオフ準決勝、松本山雅FCと対戦。チームはこれまで積み重ねてきたすべてを凝縮したかのような、完璧なゲーム運びを披露する。先制して追いつかれるも、焦ることなく、後半アディショナルタイムに赤嶺真吾選手が決勝点を決め、2対1で激しい勝利。勝点差19を覆す下克上を果たし、プレーオフ決勝へと駒を進めた。翌週のプレーオフ決勝で立ち上がったのは、セレッソ大阪。雨の中、大阪まで約3500人のサポーターが駆けつけ、岡山でも約3000人がパブリックビューイングで声援と祈りを送った。アウェイのなか、前半は0-0で折り返す。しかし、後半立ち上がりから1点を失い、必死の反撃を仕掛けるも、奮闘むなしく、試合終了のホイッスルが鳴り響いた。



# 2016年は「勝負の年」。

今年1月の新体制発表会見。「ファジアーノ岡山にとって歴史的なシーズンの幕開けです。この顔ぶれを見ればそれが夢ではなく、現実的な目標になっていると感ずることが出来ます」。キャプテンである岩政大樹選手のこんな言葉で、今シーズンの幕開けが始まりました。長澤徹監督は、J1昇格達成に向けて「プラス10」というテーマを掲げた。得点、勝点、得失点差において、これまでのシーズンの平均より10ずつ上乗せするという具体的な目標である。そして、平均入場者数1万人を目指す取り組み「チャレンジJ1」は2年目の挑戦。J1昇格を後押しするための、街の大きな「うねり」を一緒に創り出してほしいと、木村正明代表は呼びかけた。

# ファジ★カジOKAYAMA特別編 ~2016シーズンを振り返る~

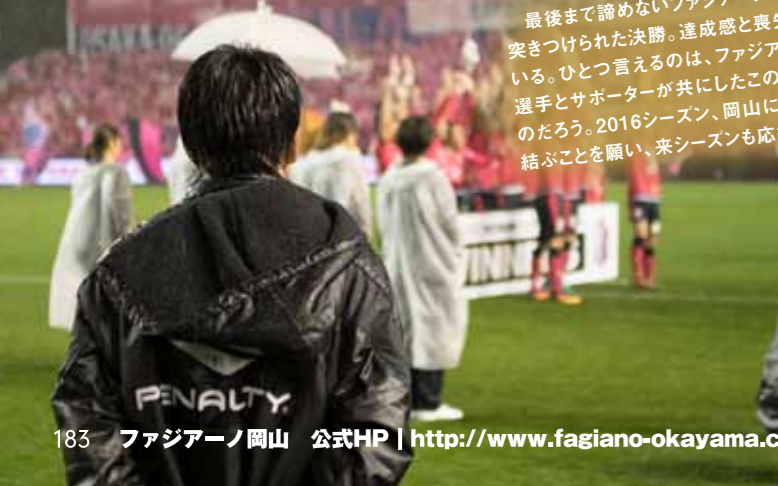
# 新たな歴史を刻んだ2016

# シーズン。 J1昇格の夢は来シーズンへ。



# 確かな希望を胸に...

最後まで諦めないファジアーノのDNAが奇跡を呼んだ準決勝。また何か足りないかと突きつけられた決勝。達成感と喪失感、2つの相反する感情を胸にシーズンオフを迎えている。ひとつ言えるのは、ファジアーノ岡山の歴史に新たな一歩が刻まれたということ。選手とサポーターが共にしたこの喜び、この悔しさこそが、夢を現実へと変える力になるのだろう。2016シーズン、岡山に生み出された力強い「うねり」と「想い」がいつか実を結ぶことを願い、来シーズンも応援しよう。確かな希望を胸に...



# まずは「チャレンジJ1」を達成。



2月28日、スタートしたJ1昇格への戦い。レノファ山口FCとの開幕戦で、サポーターは適地のゴール裏をファジレッドに染めた。夏場には、6戦連続でホーム観客数1万人超えを記録するなど、力強い後押しは続く。極めつけは、11月20日のサスバクサツ群馬とのリーグ最終戦。平均入場者数1万人を達成するには、1万4840人の来場が必要だった。それを知ったサポーターは、SNSで来場を呼びかけ、知り合いに声をかけ、友だちを誘い...。そして、群馬戦には1万5204人が集結。ひと足先に、サポーターが目標を達成した瞬間だった。同時にこの日、チームはJ2参入8年目にして、初のJ1昇格プレーオフ進出を決めた。17勝11敗14分の6位で終えたリーグ戦においては、「プラス10」もほぼ達成した。